

専門家会議での主な意見について

R4.1.26 危機管理対策室

啓発・情報提供

- ✓ オミクロン株の「病原性」（免疫力の低い人やワクチン未接種の人は重症化する可能性があること）と「感染性」（従来株に比べ感染力が強い）の異なる性質について、市民に正しく伝わるような情報発信が重要。
- ✓ 自宅療養者の急増を踏まえ、「呼吸苦」など、わかりやすいキーワードを用いて市民が医療につながる際の注意喚起を行っていくことが効果的。
- ✓ 若年層にとってオミクロン株はインフルエンザに近いため、検査、受診、投薬までの体制を整備し、過度に恐れないような情報発信が必要。

医療体制

- ✓ 今後、高齢者にオミクロン株が増えてきた際に、自宅療養が可能な場合はしっかりと療養できる体制整備が重要。
- ✓ 高齢者や基礎疾患を有する方など、ハイリスクな患者を優先的に治療することで、医療提供体制のひっ迫を防ぐことが必要。
- ✓ WEB7119の運用にあたり、症状だけでなく、年齢や基礎疾患などで医療に優先的につなぐための振り分け機能を付加すべき。
- ✓ 無症状者は無料のPCR検査につなぐなど、医療機関が有症状者の治療に専念できるような体制にすべき。